

新病院、完成間近！ 医師の決意も新たに

平成28年3月の竣工を目指し、
新春日部市立病院の建設が着々と進んでいる。
診療を担当する医師や看護師の皆さんに
新病院への思いについて伺った。



AR動画。詳しくは裏表紙をご覧ください。

kasukabe PROJECT:07 春日部市立病院再整備事業

市立病院は地域の中核的医療機関として地域医療の向上に貢献してきた。しかし、近年、施設の老朽化が著しくなり、快適な医療環境の提供が困難な状態になってきた。このため、平成20年3月に策定した春日部市総合振興計画で市立病院の再建・充実を掲げ、再整備を重要な施策と位置付け、平成28年3月の竣工を目指し、整備を進めている。

市役所の屋上から、建設中の新病院を眺め、

「こんなに進んでいるんですね」

と感慨深げに顔を見合わせたのは、三宅洋病院長、泌尿器科の蜂矢隆彦部長、外科の君塚圭部長、呼吸器外科の田川公平部長、吉川孝子看護部長。新病院で診察や治療、看護することが決まっている医師や看護師だ。

「新病院全体としての大きな特長は、災害に強い病院であることと、待たせない病院であることです」と語るのは三宅病院長。そのほかにも、延べ床面積が現病院の約1.5倍となり、総合診療科、糖尿病・代謝内科、形成外科、緩和ケア科などの新しい診療科も作られる。

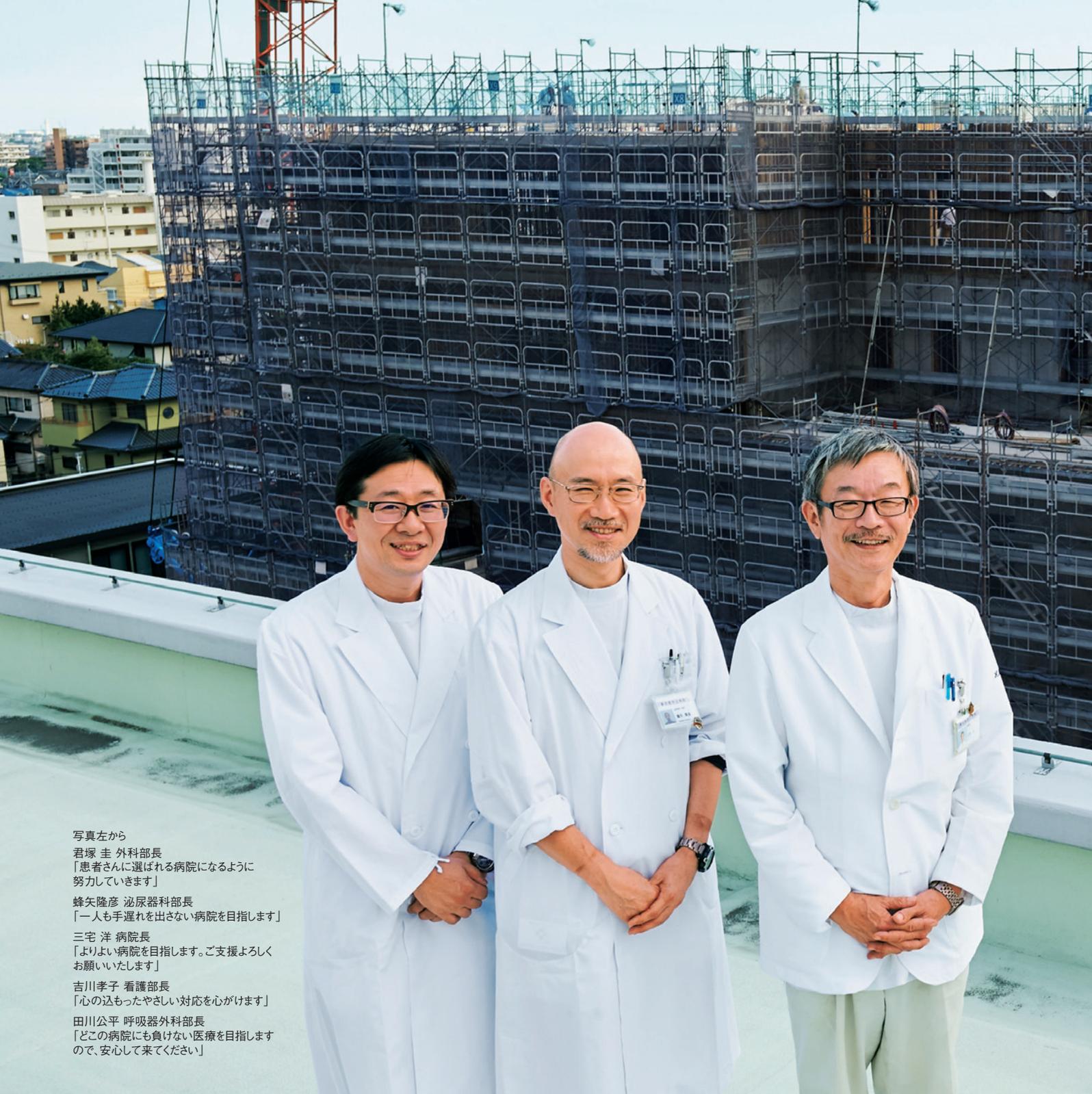
また、診療面では、がん診療に充実した医療を行うのも特長。日本中どこでも質の高いがんの治療が受けられるよう、国では「がん診療連携拠点病院」を指定している。市立病院は、この指定を受けた県内13病院の一つだ。

現在、末期がんの多くの人が病院で亡くなるが、一方で、多くの人は自宅で最期を迎えたいと考えている。

「そこで新病院では、医療と福祉が連携し、訪問型医療にも力を入れ、できるだけ患者さんの希望に沿った医療を提供します」（三宅病院長）

**手術ができなかったがんも
根治を目指す**

新病院でどんな治療が受けられるの



写真左から

君塚 圭 外科部長
「患者さんに選ばれる病院になるように努力していきます」

蜂矢隆彦 泌尿器科部長
「一人も手遅れを出さない病院を目指します」

三宅 洋 病院長
「よりよい病院を目指します。ご支援よろしくお願いたします」

吉川孝子 看護部長
「心の込もったやさしい対応を心がけます」

田川公平 呼吸器外科部長
「どこの病院にも負けない医療を目指しますので、安心して来てください」

か、各診療科の部長に伺った。

まずは泌尿器科。これまでも日本の大学病院、がんセンターに匹敵する治療を行ってきた診療科である。

「高い診療レベルを維持します。特に前立腺がん、膀胱がんは手遅れを出さないよう漏らさずに救い上げていきます。それ以外の泌尿器科疾患についても最善の治療をしていきます」(蜂矢部長)

外科は、新しく形成外科ができる。「都内に行かなくてもガイドラインに沿った標準的な治療が受けられます。特に形成外科ができるので、乳がんで乳房を切除した場合も形成ができるようになります」(君塚部長)

呼吸器外科では、最新の放射線治療の機器が導入される予定だ。

「かつて根治不能だった進行性の肺がんも、今は根治が可能です。これまで進行して手術の対象にならなかったがんも、新病院では手術できる体制が整っています」(田川部長)

また、看護の面でも、看護師に声がかけやすいようにナースステーションをオープン型にするなど、さまざまな工夫を凝らした。

「つらい病気の負担が少しでも軽くなるようお手伝いします」(吉川部長)

病院は命や健康を守る大切な施設。新しい医療設備が整い、医師や看護師などの強い思いが込められた新病院の誕生で、市民は、より健やかに、安心して暮らせるようになる。